

桜塚古墳群MAP

① 小石塚古墳 ② 大石塚古墳

昭和31年5月に国史跡に指定。前方後円墳。「大石塚古墳」は全長80m以上、後円部直径48mで「小石塚古墳」はその約半分の大きさ。周囲は緑豊かな古墳公園となっている。




④ 大塚古墳

昭和62年8月に国史跡に指定。円墳。公園内の遊具に古墳の形(下写真)をしたものがある。入り口付近には出土品「甲」や「鏡」のレプリカも。古墳の一番上から見える朝日はおすすめ。

襟が付いているのが特徴の甲(出土品)▼






掃除で拾った缶・ペットボトルから、ブルトップとキャップを外して集め、「車いす」や世界の子どもへ「ワクチン」を寄付する団体へ送っている。

③ 豊中市立伝統芸能館

豊中市岡町北1-4-1 TEL.06-6850-1313
 開館時間 9時～21時
 休館日 月曜(祝日を除く)・祝日の翌日※臨時休館あり

「大石塚古墳」と「小石塚古墳」に隣接する。「円筒埴輪」、「朝顔形埴輪」など実際の出土品(右写真)が保存、展示されている。復元された「円筒埴輪棺」も見ることができる。



⑤ 御獅子塚古墳

昭和62年8月に国史跡に指定。前方後円墳。古墳の周りには、土管状の「円筒埴輪」や器台の上に壺を載せた形状の「朝顔形埴輪」のレプリカが並べられ、当時の形を見ることができる。




⑥ 南天平塚古墳

昭和62年8月に国史跡に指定。円墳。開発によって全形は留めておらず、今は北西部分が扇形に残るのみ。



取材協力

豊中市教育委員会事務局
 生涯学習課 文化財保護係
 【問い合わせ】
 TEL.06-6858-2581

住民に親しまれている。この公園の清掃活動を毎日続けている高岡浩子さんと里田潤子さんに話を聞いた。

高岡さんはご主人と毎朝6時に家を出て、公園までの道を掃除しながら歩く。公園に着くと、里田さんたち仲間とラジオ体操を開始。夏休みの時期は、近所の子どもたちも参加するそう。その後、1時間から2時間ほどかけて公園の清掃をする。雨の日も関係なく、なんと16年近くも続けているというから驚きだ。高岡さんが掃除を始めたきっかけは夫婦で散歩をする時に「せっかくなら、ゴミ拾いをしよう」と話したことだったという。今ではボランティアの人数も10人ほどになった。「様々な年代が集まり楽しく過ごせる本当に良い公園。これからも活動を続けていきたいと思っています」と高岡さん。「この公園のおかげでみんなと知り合えたんですよ」と里田さんも笑顔で話す。

日々の清掃に加え、園内の植物のケア・備品修復に関する市への依頼も自主的に行う高岡さんたち。活動を通して地域の人々と交流を深めてきたふたりは、公園の存在を「ありがたい」と言う。周囲の人に支えられていると感じられる場所だ。『大塚公園』をはじめ、『桜塚古墳群』は市と住民が共に力を合わせ、守り続けている。今後も多くのの人々に見守られながら、文化や歴史を語り継いでゆかろう。

市民に見守られながら
豊中の歴史を伝えていく

桜塚古墳群

阪急「岡町駅」を中心に1キロほどの範囲内に広がる「桜塚古墳群」。古墳の歴史、また古墳のある公園を守る市民の活動取材した。



「大塚公園」で清掃のボランティア活動をしている里田潤子さん(左)、高岡浩子さん(右)

時代の流れと共に徐々に減り、今は文化財として残る古墳

気温も高くなり、いよいよ夏が近づいてきたと感じる季節。涼しげな場所を求めて、「岡町駅」から西へ3分ほど歩くと「大石塚古墳」と「小石塚古墳」の並ぶ公園が。園内は緑いっぱい。夏でも気持ちの良い風が吹き抜け、土や自然の薫りがする。地域の方の憩いの場所になっているようだ。

この「大石塚古墳」・「小石塚古墳」のほかに、「豊中市役所」周辺には「大塚古墳」・「御獅子塚古墳」・「南天平塚古墳」がある。かつては40基程度の古墳があったとされるが、宅地開発が進むにつれて消滅していった。現在残っている5基は「桜塚古墳群」として昭和62年に国史跡に指定された。

出土品から読み解ける4世紀～5世紀の豊中の姿

古墳とは、3世紀後半から約400年間、日本で盛んに造られた身分の高い人々を葬る墓のこと。「桜塚古墳群」の古墳は4～5世紀ごろに造られたといわれている。

これまでの発掘調査で「桜塚古墳群」から「甲冑」や「鉄の鏃(弓矢の先端につけるもの)」、「刀剣」といった副葬品が大量に見つかった。「戦いに関わりの深い有力な豪族が「桜塚古墳群」には埋葬されていたと考えられているんです」と話してくれたのは「豊中市教育委員会事務局」生涯学習課文化財保護係の陣内高志さん。有力だという理由は、当時の権力ある大王・豪族が葬

幅広年代が利用する公園を市民が協力して守っている

「御獅子塚古墳」の向かいにある「大塚古墳」。ここは「大塚公園」として整備されており、たくさんの子どもたちや地元

「仁徳天皇陵古墳」(堺市)の出土品と似た特徴のものが同古墳群からも数多く発掘されているからだ。中でも「眉庇付冑」や「短甲」と言われる甲は、高度な製作技術が必要とされる優れた武器類で、大王から贈られたといわれている。古墳の大小や形、副葬品などで、当時の文化や風習、情景を感じられるのが魅力である。

また「桜塚古墳群」は地域の小学生が課外学習に訪れたり、文化財を探索している団体などが見学する機会が多い。身近な史跡。陣内さんたち見学会の担当者が説明をすると、子どもたちも聞きながら聞いてくれるそう。事前に申し込みをすれば、通常は施設している「御獅子塚古墳」に入ることもできる。同古墳は、出土した埴輪(レプリカ)が周囲に並べられ、当時の姿が再現されている。「こんなすごいものが豊中にあるんだと、一人でも多くの方に知ってもらいたい」と陣内さんは言う。たしかに、なかなか身近にない古代の息吹を感じられるスポットだ。

豊中市教育委員会事務局
 生涯学習課
 文化財保護係
 陣内高志さん